診断ひろしま

令和元年 7 月　第 81 号

■　巻頭の言葉　『総会　ご挨拶』　会長　江川　雅典・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
■　巻頭の言葉　『総会　祝辞』　中国経済産業局　中小企業課課長　難波　貢司・・・・・・・・・・・・3
■　巻頭の言葉　『総会　祝辞』　広島県商工労働部　経営革新課課長　和田　徹・・・・・・・・・・・・3
■　トピックス　『令和元年度通常総会　報告』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
■　スキルアップメニュー　平成 30 年度　冬季実務補習報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
■　随筆・見聞録『スペイン旅行』　谷本　俊満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
■　書評『イノベーションの最終解』　藤掛　真行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
■　会員『診断士リレー訪問記』　黒崎　崇貴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
■　新入会員紹介・・・16
■　令和元年度 研究会活動計画・・22
■　令和元年度 委員会活動計画・・25

一般社団法人 広島県中小企業診断協会

巻頭のことば

『総会　ご挨拶』
60 周年記念行事を控えて

会長　江川　雅典

今から約一年前、2018 年の 7 月 5 日から翌 6 日にかけて降り続いた大雨は、県内各地にも甚大な被害を招きました。多くの犠牲者が出て、大切な家屋や資財が流され浸かり、交通網の寸断で広島経済に大変な打撃を被った災害となったことは、まだ記憶に新しいと思います。

私たち中小企業診断士も力を合わせ、グループ補助金や被災地対応型の小規模事業者持続化補助金の申請支援に取り組んでまいりました。ご協力をいただいた診断士の皆様に改めてお礼申し上げます。

本年 11 月 1 日に広島県中小企業診断協会は、60 周年の記念行事を計画しています。当日は ANA クラウンプラザ広島を会場にして、15 時より記念式典を、18 時半より交流会を考えているところです。企業内診断士の皆様にとりまして、記念式典への出席は難しいかもしれませんが、時間をご都合いただき交流会には是非ともご参加いただけましたら幸いです。多くの来賓の方々を交え、中小企業診断士の活気が伝えられるプログラムを、現在検討しております。

3 年前より 11 月 4 日を中小企業診断士の日として制定しています。これは、1948 年（昭和 23 年）の 11 月 4 日に中小企業庁により「中小企業診断実施基本要領」が制定され、経営に関する専門家を活用する「中小企業診断制度」が発足したのを記念したものです。これは、戦後復興の中で、金融、組織、診断・指導を 3 つの大きな柱として体系化したものとなっていました。

その後 1952 年（昭和 27 年）には、「中小企業診断員登録制」が発足しています。診断制度の質的・量的拡充を図るため、優秀な専門家が通商産業大臣（現在の経済産業大臣）によって登録され、都道府県の行う診断指導に携わるものでした。この当時は、民間によるコンサルティングが未発達の状況であったため、官主導で展開していたことが特徴です。

1954 年（昭和 29 年）に中小企業診断協会が設立され、その 5 年後の 1959 年（昭和 34 年）に広島県支部が設立されました。中国 5 県の中で一番早い支部の設立となっています。そこから 60 年の月日が流れ現在に至っています。

ここに至るまで多くの先人達が、経済の大きなうねりの中、大変な苦難を乗り越えながらこの協会を繋いでこられました。これまでのご尽力に感謝し、これから先にその想いを繋いでいきたいと考えております。中小企業診断士が、地域の発展や地域事業者への貢献を通じて社会的役割を果たし、この地域を支える存在として認知してもらえるように、一所懸命に協会を運営していきたいと考えております。皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。これからもよろしくお願い致します。

『総会　祝辞』

中国経済産業局　産業部　中小企業課　課長　難波　貢司

本日はお招きいただきありがとうございます。

先ずは先ほどの一般社団法人広島県中小企業診断協会令和元年度通常総会が無事終了されましたこと、お喜び申し上げます。日頃から経済産業施策の推進につきましてご協力頂きありがとうございます。

特に昨年の西日本豪雨災害の復旧にあたりまして、広島県中小企業診断協会の皆さま方には、復興支援アドバイザーの派遣等、被災事業者へのご支援を精力的に行ってこられましたことに深く感謝申し上げます。

未だ復興途上であり、当局としましても広島県と一緒になってグループ補助金等執行しているところでありますので、引続きご支援を頂ければと思います。よろしくお願いします。

さて、そういった災害の事前対策として事業継続計画（BCP）の策定が有効だと再認識された事業者も多いことから、それを後押しするため、経済産業省では中小企業強靭化法案※を今国会に提出し、審議していただいているところです。

事業者が事業継続計画を策定し、国が認定すると税制、融資等の支援策を受けられるというスキームですが、この計画策定にあたっては多くの指導人材が必要となっており、中小企業診断士の皆さまにはこの指導人材としてかなり大きく期待しているところであります。是非、趣旨をご理解頂き、当法案成立後にはご協力の程、よろしくお願いします。

最後になりますが、広島県中小企業診断協会の益々の発展と皆さま方の更なるご活躍を祈念しまして、私の挨拶とさせて頂きます。本日は、おめでとうございます。

※同法案は令和元年５月 29 日成立、同６月５日公布されています。

『総会　祝辞』

広島県商工労働部　経営革新課　課長　和田　徹

一般社団法人広島県中小企業診断協会の通常総会が盛会のうちに終えられましたことを心からお慶び申し上げます。貴協会におかれましては、昭和 34 年に社団法人中小企業診断協会広島県支部として設立以来、会員の資質向上や中小企業診断制度の普及と推進に努められ、中小企業の振興と地域経済の健全な発展に寄与されますとともに、昨年の７月豪雨災害での被災中小企業者に対する支援や本県で実施しております中小企業

経営革新支援事業での計画作成支援など、県行政に多大なご貢献を頂いておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり本県経済の設備投資は高水準で推移し、輸出は穏やかに増加し個人消費は持ち直しているなど、ゆるやかに拡大しておりますが、一方で、消費税率の引き上げの影響や米国の保護主義的な通商政策などの動向に下振れリスクがございます。また、豪雨災害からの復旧・復興の途上にあり地域の中小企業を取巻く環境は依然として厳しい状況にあると考えられ、商工労働局におきましては被災企業への支援として、グループ補助金に係る復興計画の認定や補助金の交付決定、国の持続化補助金の採択事業者に対して県の補助金の交付、保証料を不要とした特別資金等による融資等を実施したところです。今年度は、新たに、BCP（事業継続計画）の策定が進んでいない中小企業等を対象に、ワークショップ形式での策定講座の開催など BCP 策定の支援を行います。その他、中小企業・小規模企業の持続的な成長に向けた取組みを支援するため、平成 29 年 10 月に制定された「広島県中小企業・小規模企業振興条例」を踏まえ社会経済情勢の変化に対応する総合的な支援を引続き行ってまいります。

私ども、経営革新課で実施します県費預託融資制度では今年度、貸出利率の見直しを行い、融資対象を拡充するとともに、経営改善支援特別資金の取扱期間の延長、産業支援融資などにおける設備資金の貸出利率の引下げを継続し、中小企業の設備投資などを促進します。次に、経営革新支援では、平成 30 年度は、前年度の 88 件を大きく上回る 133 件の計画を承認しました。皆様方のご支援・ご協力の賜物であると感謝申し上げます。事業承継税制では、平成 30 年度から特例措置による制度の充実が図られており、平成 30 年度の認定件数は 26 件で前年度の 9 件から急増いたしました。さらに、今年度から個人事業者の土地・建物、設備などの事業用資産を対象とした個人版の事業承継税制も加わり、事業承継に伴う税の負担軽減の拡充が図られます。経営者の高齢化が進展し、後継者不在が深刻な状況にありますが、県といたしましては、広島県事業承継ネットワークとの連携を強化するとともに、経営者の意識喚起や、支援担当者向けの研修会開催による支援担当者のスキルアップなど、円滑な事業承継に向けた支援を強化してまいります。

貴協会におかれましても、豊富な経験や能力を十分発揮され中小企業者と金融機関・行政をつなぐパイプ役として本県中小企業の更なる発展にご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、広島県中小企業診断協会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

トピックス

『令和元年度通常総会　報告』

総務委員長　波出石　誠

令和元年５月 18 日（土）15 時 30 分より TKP ガーデンシティ広島駅前大橋において、一般社団法人広島県中小企業診断協会の通常総会を開催した。司会は、西村英樹事務局長が行った。

会議に先立ち江川雅典会長より、次のような挨拶があった。「平成 30 年度は、新体制での協会運営となったが、各委員長、委員、事務局の動きに支えられ、この一年を乗り越えることができた。しかし、7 月の実務補習では西日本豪雨災害に見舞われ、交通網が乱れる地域に補習受講者を呼び寄せることとなった。関係者に被害はなかったが、安全確保を第一義に捉えた管理運営の必要性を痛感した。今日、様々な環境要因が目まぐるしく変化するなか、中小・小規模事業者の経営環境は不安定さを増している。今後とも診断に役立つ色々な情報を積極的に提供し、中小企業診断士の拠り所となる協会運営を目指していきたい。」

総会（TKP ｶﾞｰﾃﾞﾝｼﾃｨ広島駅前大橋）

懇親会（広島ｸﾞﾗﾝﾄﾞｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾎﾃﾙ）

続いて、現会員 182 名のうち出席者は 53 名、表決権行使 71 名、計 124 名となり、定款第 18 条に定める総会成立の要件を満たすことが確認され、江川雅典会長が議長に就任した。

総会では、次の 2 つの議案、「平成 30 年度事業報告（案）、正味財産増減計算書（案）、貸借対照表（案）の承認に関する件」、「令和元年度事業計画（案）、正味財産増減予算書（案）の承認に関する件」が上程され、質疑応答の後、全員異議なく承認可決された。

総会閉会後、会員表彰が行われた。20 年以上当協会の会員であって、永年にわたり当協会の発展に貢献した者として、岡本泰之氏、木村武則氏、酒井健次氏、綿岡英幸氏が表彰され、当日出席の木村氏、酒井氏に江川会長より表彰状と記念品が授与された。

会員表彰の後、新入会員紹介、当協会創立 60 周年記念シンポジウム（案）の説明があった。

18 時 30 分より広島グランドインテリジェントホテルにおいて、以下の来賓 19 名をお招きし、会員 58 名、計 77 名で懇親会が開催された。児山宗生氏の司会で、江川会長の挨拶、来賓祝辞、

来賓紹介、乾杯発声に続き、歓談、新入会員紹介が行われた。活発な交流が行われた後、司会の児山氏の閉会の挨拶で閉会した。

ご来賓

中国経済産業局産業部中小企業課　課長　難波　貢司　様
広島県商工労働局経営革新課　課長　和田　徹　様
独立行政法人中小企業基盤整備機構中国本部　本部長　村松　清孝　様
中小企業大学校　広島校　校長　渡邉　修二　様
公益財団法人ひろしま産業振興機構　常務理事　天野　清彦　様
公益財団法人広島市産業振興センター中小企業支援センター　所長　土佐　計　様
広島県中小企業団体中央会　事務局長　藤本　光徳　様
広島商工会議所　中小企業振興部金融課　課長　奥野　泰識　様
広島県商工会連合会　地域振興部　部長　脇安　秀明　様
広島県中小企業再生支援協議会　広島県経営改善支援センター支援センター長　斉藤　博　様
中国税理士会　広島県西部支部連合会　会長　海老澤　孝公　様
広島司法書士会　会長　高尾　昌二　様
広島県社会保険労務士会　会長　林　利憲　様
日本公認会計士協会中国会　会長　蔵田　修　様
広島県行政書士会　副会長　原田　誠　様
日本政策金融公庫広島支店　国民生活事業　融資第二課　課長　野口　裕司　様
広島銀行　法人企画部　事業性評価推進室　担当副部長　沖田　正博　様
係長　藤井　裕児　様
もみじ銀行　営業統括部　副部長　妙見　文隆　様

令和元年度役員・委員名

【　役　員　】

代表理事 /会 長	江川 雅典		
副 会 長	井上 明雄	大村 貞之	西原 州康
専 務 理 事	西村 英樹		
理　　事	岡　佳弘	小川 成洋	落野 洋一
	川角 栄二	黒川 睦郎	小寺 崇之
	田辺　稔	波出石 誠	松浦 和夫
	松浦 由浩	宮前 美方子	
監　　事	岩井屋 忠昭	木村 武則	

【　顧問/相談役　】

顧　　問	藤田 武志・岸本　実	相談役	田村 善光

【　委　員　】

委 員 会	担当副会長	委 員 長	副委員長	委　員	
総務委員会	西原 州康	波出石 誠	谷本 俊満	児玉 忠則	中尾 友和
				佐藤 温彦	平田 里文
				渡邊 敏明	松浦 和夫
広報委員会		小寺 崇之	古川 佐千夫	青谷 智晃	三本木 至宏
				原 信之介	丸田　稔
試験委員会	大村 貞之	落野 洋一	松浦 由浩	岩井屋 忠昭	植田 昌子
				馬上 元彦	木村 義洋
診断実務委員会		小川 成洋	田村 善光	川角 栄二	水津 卓也
更新研修委員会		宮前 美方子	野村 哲朗 弓掛　元	金田 賢二	小地原 良樹
				中岡　朗	三宅 慶子
				森島 重樹	
会員研修委員会	井上 明雄	川角 栄二	榎　志織	大島 季子	木村 武則
				野崎 義博	牧野 恵美子
ｸﾞﾙｰﾌﾟ研究委員会		岡　佳弘	岩田 潤一 黒川 睦郎	市岡 和美	岡本 志朗
				黒崎 崇貴	小林 幸夫
				鉄本 一生	野崎 義博
				宮前 美方子	
品質保証委員会		西村 英樹 (兼)		黒川 睦郎	田辺　稔
				松浦 和夫	松浦 由浩

【　事務局　】

事務局長	西村 英樹(兼)	事務局長補佐	谷本 俊満	事務局員	村戸 望佐

連　載

１．スキルアップメニュー

平成 30 年度　冬季実務補習 15 日間コース第 3 回　第 1 班　受講報告

実務補習生:岡部　薫、楢原慶祐、岡山弘幸、大谷康之、北畠雄一（文責）

１．はじめに

平成 31 年 3 月 8 日から 3 月 18 日まで木村武則先生の御指導のもと、潜水士、広告代理店勤務、製造業勤務、金融機関勤務の計 5 名で、中小企業診断士の実務補習に取り組んだ。

実務補習参加回数は、全員が 15 日コースの 3 回目であった。

２．診断先企業の概要

診断先企業は広島県 A 市の創業 8 年目のソフト開発業であり、これまで紆余曲折を経て、企業を成長させてきている。現在自社開発商品（自社ブランド商品）では大きな成功には至っておらず、過去には多額の赤字を計上し、企業存続の危機に陥ったこともある。現在は大口の顧客の獲得などで経営状態は改善傾向である。

ビジネスモデルは、

①企業等の顧客からの受託開発

②企業へ自社開発商品（自社ブランド商品）の販売

③個人顧客へ自社開発商品（自社ブランド商品）をインターネット経由で提供である。

３．現状の課題と将来の方向性

現状を認識して一言に集約すれば「短期的には業績が安定しているが、中長期的には経営基盤が確立されていない」と考え、現状を生む根本原因は「経営資源に対して事業領域が広すぎて、経営資源が有効に活用されていない」と考えた。また、将来の基本的方向を「経営基盤を強化しつつ、短期的には受託開発事業に注力する、長期的には自社商品の開発を進める」に設定した。

４．改善提案

（１）経営戦略：「組織内のコミュニケーション活性化」「経営基盤構築のロードマップの作成及び経営ビジョンの従業員への周知」

（２）営業・企画：「業務の整理･マニュアル作成、共有ツールの導入」「HP 強化･営業キットの作成」「売れる自社プロダクトの企画ができる仕組み作りと営業の強化」

（３）人事・労務：「新卒採用サイトの新設」「等級制度の導入」「ワークライフバランスの推進」

（４）ソフト開発：「スキルマップの作成」「教育訓練計画表の作成」「業務の細分化･レベル化」「業務標準書の作成」「余力管理の見える化」

（５）財務・会計：「労働時間目標の設定･結果開示」「従業員持株会の導入」「賃金制度の構築・導入」

５．実務補習後の所感

初日の社長ヒアリングでは、様々な情報を提供して頂き、その情報を基に、先生の御指導や班員との議論を深めることにより、課題を抽出・整理し、改善策を導出することができ、何とか報告書を作成することができた。

プレゼンテーション時には社長から、「現在の自社の抱えている課題に対する適切な提言だった」「参考にしたい提言が多くあった」と良い反応が頂けた。

今回の実務補習では得たものや、感じたことは数多くあるが、その中でも特に強く印象に残ったことを 3 点申し述べる。

1 点目は他者に貢献できること、感謝されることによる喜びである。コンサルタントという業務の一番の報酬はここにあるのではないかと思い至った。

2 点目は自分の能力が圧倒的に不足していることを再認識させられたことである。勉強を続け、能力を高める意識を持ち続けることの重要性を再認識させられたことは実務補習で得た大きな教訓である。

3 点目は先生の御指導と班員の皆様への感謝の気持ちである。3 回目の実務補習では班長という役割を任せていただいたが、前述したように自分の能力不足から先生や班員の皆様に迷惑をかけることも多かった。今回の実務補習を無事終えられたことは、先生の御指導や班員の皆様の支えのおかげであり、感謝の念に堪えない。

最後に、業務御多忙の中、当班の実務補習にご協力いただいた診断先企業、適時・的確なご指導をいただいた木村先生、最後まで熱意を持って診断書作成に取り組んでくれた班員の皆様に、この場をお借りして厚くお礼を申し上げたい。

平成 30 年度　冬季実務補習 3 月コース受講（広島地区第 2 班）受講報告

実務補習生：石合広樹、尾前充弘、平宅栄三、真野恭旨、金河哲成（文責）

１．はじめに

平成 31 年 3 月 8 日から 3 月 18 日まで、伊藤雅次先生のご指導のもと、公的機関勤務 1 名、電気機器メーカー勤務 1 名、金融機関勤務 2 名、不動産鑑定士 1 名の計 5 名で、中小企業診断士の実務補習に取り組んだ。実務補習参加回数は全員が 3 回目であった。

２．診断先企業の概要

診断先企業は広島県 A 市の印刷業者であり、高いデザイン力や企画から印刷までの一貫体制に強みがあるものの、大口の取引先との契約がなくなったことにより赤字となっており、かつ過去の設備導入等にあたっての借入金が多く残っており債務超過の状況となっている。

３．現状の課題

まずは債務超過の状況を脱する必要があり、そのためにもコスト管理体制の構築や、収益性の向上をいかに図っていくかが課題であると考えた。

４．今後の方向性と改善提案

今後の基本的方向として､｢利益管理体制と企画デザインを中心とした営業体制による財務基盤の改善｣を掲げ、それを実現するために以下のような提案を行った。

市場・環境部門：専門性を活かした差別化、高付加価値化
　　新市場のへの展開
経営戦略部門：企画デザインを中心とした営業による売上増強と収益改善
　　利益管理体制の構築による財務基盤の改善
製造部門：生産座席予約方式の導入
　　工場入り口付近への製本機配置
　　在庫保管場所の決定と徹底
　　無線 LAN によるデータ授受
営業部門：既存取引先（上位）のさらなる取引深耕
　　既存取引先（下位）への効率的な対応
財務部門：人件費・物件費の抑制
　　会計処理の適正化

10 年間の目標売上高及び試算表の作成

５．　実務補習後の所感

診断先企業への提案については、まずは債務超過解消のための計画策定という大きな方向性を班員同士で共有できたため、作業は比較的スムーズに進んだ。診断先企業は財務においては脆弱な面もあるが、高い企画・デザイン力、従業員の能力の高さ、同業他社からの評価等、数字には表れない強みを多数有しており、そのような強みを社長や従業員の方々へのヒアリングや実地調査を通じてしっかり把握することが大事であると感じた。プレゼンテーション後においては社長から診断報告書を従業員の方々にも読んでもらいたいとのお言葉をいただいたこともあり、今回の診断報告書が診断先企業の発展のひとつの契機になれば嬉しい限りである。

診断報告書作成の過程においては、それぞれ専門性のある仲間と意見を出し合い、伊藤先生の助言をいただきながら課題や改善を把握し、一つの成果物を作成する作業が新鮮であった。また自分の考えつかなかった意見や知らなかった知識を吸収できたことから、大変学びの多かった 10 日間であった。

最後に、お忙しい中実務補習に協力していただいた診断先企業、ご指導いただいた伊藤先生、診断報告書を一緒に作成した班員の皆様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

２．診断士コミュニティ

随筆・見聞録『スペイン旅行』

中小企業診断士　谷本　俊満

昨年、妻に誘われて海外旅行を楽しんできた。

30 年ぶりである。夫婦二人の海外旅行は新婚旅行以来である。パスポートも新しく作成した。パスポート発券センターではひとつひとつ丁寧に教えてくれた。周りから見ると心配なおじいさんなのだろうな、と思った。事実、自分では書けないところがあり職員に細かく教えてもらいながら申請書を作成した。

初めてのスペインである。ツアーの選定、予約は全て妻が行なってくれた。どんなところに行くのか何度か説明してくれたが頭に入ってなく、ちょっとしたミステリーツアーであった。バルセロナ、マドリッド、トレド、コルドバ、カルモナ、セビリア、ロンダ、ミハス等々。

ミハスではお土産物屋のおじさんから 3 単語の日本語（20 ユーロ、ほんもの、やすい）で売り込みを受けた。それでも商品を一緒に見せ丁寧な態度なのでついつい商品に見入ってしまった。言葉は喋れたほうが良いが喋れてなくてもなんとかしていた。多分あのおじさん 10 か国語以上対応しているような気がする。

マドリッドのバルでグラスワインを頼んだ。ワインと一緒に無料でオリーブのオイル漬けが出て来た。粒や熟度は不揃いであるが 30 粒くらいあり、おつまみとしては十分であった。日本のスーパーの野菜売り場を思い出すと普段使いをするものに必要以上の品質を求めているように思えた。

夕方、バルの前を高校生らしき男女のグループが通って行った。最初は遊びに来ているのかと思ったが、近くの美術館が夕方は学生無料になりその帰りだとのことであった。平日の学校帰りに美術館など行ったことなどなく、羨ましい気がした。

ロンダでは夕方開催の市民マラソン大会に出会った。走ったあとは皆で飲んで楽しむのであるが買い食いしたゴミをあちこちに捨てていた。早朝のゴミ清掃に出会った。なにもかもゴミ収集車にブチ込む思い切りの良さ、細かな分別はしていない。3～4 人の清掃チームが通ったあとの道路はゴミひとつなく綺麗になっていた。

各都市には認定の観光ガイドが居る。旅行会社はその都市の認定ガイドを付けないとツアー客を案内できない、認定ガイドを守っているのである。また逢いたいガイドもいればガイドとは名ばかりで雑用しかしていないガイドもいた。競争の原理が削がれているようだ。

さて、スペインの就業者一人当たりの労働生産性は 92,828 ドル/年と日本より 13%高い。人時

生産性はもう少し高く 15%高い 52.4 ドル/時である。経済危機と言われていながら、昼間はゆっくりとシエスタを取り夕食も家族で楽しむ生活をしている国である。日本に比べ１割以上生産性が高く、かつ物価が安い。観光ツアーではお決まりのお土産用ドライブインに連れていかれたが食料品を中心に安価なものが多い。食品スーパーでもパスタやチーズ、お土産用のチョコも含めてお手頃価格のものが揃えてある。日本よりゆとりのある生活があった。

書評『イノベーションの最終解』

中小企業診断士　藤掛　真行

イノベーションの最終解（ハーバード・ビジネス・セレクション）
著　者：クレイトン・M・クリステンセン
出版社：翔泳社
発行日：2014/7/8
価　格：2,376 円（税込）

本書は、ハーバード・ビジネススクールのクレイトン・M・クリステンセン教授による、イノベーション三部作の最終作である。

『イノベーションのジレンマ』は、「イノベーションとは何か？」という、単純でありながら誰も明快には答えることができなかった問い掛けに対し、イノベーションの定義とそれが起こる理由を、「破壊的イノベーションの理論」を用いることによって初めて明らかにした名著である。既存企業が、破壊的イノベーションで攻撃を仕掛けてくる新規参入企業にはほぼ必ず負けるのは、利益極大化を目指した合理的な正しい経営判断が理由なのだという理論構築は衝撃的であった。

続く『イノベーションへの解』においては、「資源・プロセス・価値基準の理論（ＲＰＶ理論）」「バリューチェーン進化の理論（ＶＣＥ理論）」を用いて、「イノベーションを起こすためには何が必要なのか？」という、これもまた誰もが答えを求めていた命題に対して、著者の回答が示される。「資源（企業が持っているもの）」、「プロセス（企業が仕事をする方法）」、「価値基準（企業のしたいこと）」、「自社にとって望ましいバリューチェーンの構築」が組み合わさることによって、企業に組織としての強み・弱みが決定されるという著者の主張は、内部・外部の環境分析を起点とする企業診断手法とも通ずるものがあり大変説得力があった。

著者の言葉によれば、本書『イノベーションの最終解』は、前著二作とは異なり、理論を活用するための本であり、戦略立案者やアナリスト、投資家など、業界の評価を行い意思決定や提案を行う者の視点でまとめられている。本書において、イノベーションを生み出すために必要な着眼点として示されるのは、「変化のシグナル（自社の顧客と自社が提供している価値）」、「競争のバトル（競争環境、強みと弱み）」、「戦略的選択（3 つの重要な選択）」、「市場外の要因（動機づけと能力）」である。この着眼点を切り口とした分析手法が、体系的なものであり本書の中心である。この手法を SWOT 分析などの診断ツールと併せて活用すれば、企業診断の精度を高めることに大いに役立つであろう。特に、「3 種類の顧客集団」、①製品を消費していない顧客や製品を不便な環境で消費している顧客（無消費者）、②製品を消費しているがニーズが満たされていない顧客（満たされない顧客）、③製品を消費しているがニーズが必要以上に満たされている顧客（過剰満足の顧客）を突き詰めることは、全ての企業にとって有意義であろう。

本書後半の第二部では、イノベーション理論に基づく分析手法を用いて、6 つの業界・分野、（教育、航空、半導体、医療、通信、海外市場）におけるイノベーションの未来予想が示されている。「教育」や「医療」の分野における「過剰満足の顧客」、「ローエンド型破壊的イノベーション」のイメージがすぐには浮かばなかったが杞憂であった。また、本書は原書の刊行から約 10 年を経ての新訳版であり、本書の未来予想を現在と対比できる点も付け加えておく。内容の充実した大変読み応えのあるビジネス書であり、是非、一読をお勧めしたい。

『診断士リレー訪問記』

中小企業診断士　黒崎　崇貴

榎 信行（えのき　のぶゆき）　氏

今回は､先日 中小企業診断士として独立開業された､榎さんを紹介します。榎さんとは 2 次試験対策の勉強会がご縁で知り合い、お会いするときはいつも、前職でのお仕事への取組みを熱く語っておられました。

その榎さんがいよいよ独立開業されたということで、今の思いを改めてインタビューさせてもらいました。

Q：満を持しての独立開業ですが、踏み切る決め手になったことはありますか？

A：診断士登録から 7 年経っての独立開業で、その間に迷ったり、悩んだりもしました。

ただ､診断士の受験勉強をしていたときに 2020 年までに起業するという目標を決めていたので、あとはタイミングの問題でしたが、何とか目標の 1 年前倒しで実現することができました。

そうは言っても、私の年齢（47 歳）での独立は機会損失が非常に大きく、不安のスパイラルに

入ることもしばしばありました。でも、やっぱり組織の看板ではなく「自分でやりたい」という当初からの思いが強く独立に踏み切りました。その決断を支えたのは、前職の経験で培ったノウハウをまとめることができたことです。今後は「売上を上げるためのチームビルディング」という独自の実践理論をコアコンテンツとして活動していきたいと考えています。

Q：「チームビルディング」という強みにつながった経験とは、どんなものだったのですか？
A：「わかりやすい実践理論」と「ハンズオン型」で現場力を改善していけることが私の強みだと思っています。それを支えるノウハウは、前職の人事異動で突然任せられることになった販売店の店長職の経験から得ることができました。

当時、赤字が常態化した店舗に赴任した私の最大ミッションは早期黒字化でした。

職場メンバーのモチベーションは低く、人間関係もギスギスした離職率の高い職場で、何から手を付けて良いか分からない状態でした。試行錯誤を繰り返した結果、職場メンバーの一体感を生み、黒字化の達成はもとより、優良店舗へと変身できた経験は非常に自信になりました。

この時に、組織はリーダーによって大きく変わり、パフォーマンス（売上・利益）を最大化できることを体験しました。その後、15 店舗の販売改善をお手伝いすることになり、さらに自信を深めることができました。

こういう書き方をすると「ティール組織」の真逆？という思いを持つ方もいるかもしれません。組織を単に形としてみれば違うかもしれませんが、要は社員の自立や成長を促すという本質的な点でみれば、非常に共感する部分が多いと思っています。

Q：独立された直後ですが、現在はどんな活動をされていますか？
A：現在は、介護サービス事業者のコンサルティングを主にやっています。介護・福祉業界は、高齢化社会で介護ニーズは増大するものの、多くの介護サービス事業者は厳しい経営環境にあります。特に寡占化が進んでおらず、中規模・小規模事業者の乱立により介護職員や利用者の獲得競争で体力を消耗している面があります。

それと現場で感じる問題点は、従業員のモチベーションです。給与面や労働面の要因も大きいですが、目標を意識しチームとして工夫しながら成果を生み出す文化になっていないことが問題の本質ではないかと考えています。現在はそういった経営改善のお手伝いを主にしています。

Q：最後に、ご夫婦で診断士ということで、良かった点や やりにくい点があったら教えて下さい。
A：よく聴かれる質問ですね。良い点は、先輩診断士が身近にいるということです。仕事のことを相談したり、他の診断士の先生方を紹介してもらったりと、色々な面で助けてもらっています。

やりにくい点は、特に感じていませんが、周りの方が名前を呼ぶときに同じ名字なので困るだろうなと想像することはあります。

『新入会員紹介』

正会員

岩崎　美友紀（いわさき　みゆき）

この度、広島県中小企業診断協会に入会しました岩崎　美友紀です。出身は他県ですが、大学時代から広島に住み、11 年目に入りました。中小企業診断士を目指すきっかけとなったのは、就職活動中の役員面接で「入社したら、中小企業診断士の勉強をしてほしい」と言われたことです。縁あって大学卒業後はその会社に就職し、秘書や広報、労務など幅広い業務を担当してきました。短期間に様々な業務を経験できたのも、中小企業だからこそだと実感しています。

また、プライベートでは、2 児の母親として子育てに奮闘しています。仕事と子育ての両立、加えて中小企業診断士としての活動は、大変ではありますが、とてもやりがいを感じています。

中小企業診断士に登録したものの、子育てが忙しくあまり積極的に活動ができていませんでしたが、診断協会に入会したことをきっかけに、多くのことを学んでいきたいと存じます。

若輩者ではありますが、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

正会員

金河　哲成（かねかわ　てつなり）

この度、広島県中小企業診断士協会に入会いたしました、金河哲成と申します。広島出身で大学卒業後は証券会社勤務を経て、現在は地元広島で不動産鑑定士として不動産鑑定業を営んでおります。

中小企業診断士を目指したきっかけとしては、自分自身が不動産鑑定業という事業をおこなっているため経営者としての知識やノウハウを勉強したいという思いがあったことです。また、不動産鑑定士としての業務は地価公示や相続税路線価等の公的評価が多いのですが、企業経営を行う中での不動産取引において、不動産鑑定士としての知識や経験が役立つ場面がもっとあるはずとの思いから目指しました。

今後は、広島県中小企業診断士協会での活動も積極的に行っていきたいと思っておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

正会員

小畠 三奈（こばたけ みな）

どうもはじめまして。小畠三奈と申します。私は、平成 30 年 11 月に中小企業診断士に登録をし、この度、広島県中小企業診断協会に入会させていただきました。

私は、大学から東京に８年ほど在住しておりましたが、生まれも育ちも福山です。数年前から社会保険労務士で独立していたこともあり、現在は独立診断士として活動しています。

独立する前までは、広告代理店、Web サイト/システム開発会社、外資系生命保険会社、税理士事務所等多くの業種で広く浅く経験を積んできました。こんな私ですが、今までの経験を活かしながら、経営者の夢に寄り添えるこの仕事に心から喜びを感じています。一人でも多くの経営者の夢実現のお手伝いができるよう、日々一歩ずつ確実に成長して、信頼に値する仕事を実現していきたいと思っています。

若輩者ですが、先輩方にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い致します。

正会員

児山　宗生（こやま　むねお）

皆様初めまして、新入会員の児山宗生と申します。本年４月に「平成最後の中小企業診断士」として登録しました。（令和最初の登録も捨てがたかったのですが、逸る気持ちを抑えきれませんでした…）

私は福山市で生まれ育ち、中学・高校は陸上の長距離走に打ち込みました。大学時代は広島市で過ごしましたが、就職を機に地元に戻ってきました。現在は広島県中小企業団体中央会の福山支所に勤務しています。

業務内容は、協同組合をはじめとした連携組織の運営支援、個社の各種計画の策定や補助金申請書の作成支援、ものづくり補助金の事務局運営など多岐にわたっています。中小企業への専門家派遣を行うことも多い中で、「専門家の先生に頼りっきりになるのでなく、対等な関係で経営支援に携わりたい」という想いが強くなり、中小企業診断士になることを決めました。

格好良く一発合格とはいきませんでしたが、本年２月の実務補習では連日夜明けまで共闘した仲間や、指導員の先生方とのかけがえのない出会いがあり、過去の不合格には感謝しております。

経営者と一緒になって悩み、苦しみながらも、最適な経営の打ち手を見出し、その実行のお手伝いをする。それができる中小企業診断士を目指し、今後も自己研鑽に努めてまいりますので、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

正会員

内藤　憲（ないとう　けん）

この度、中小企業診断士に登録し、広島県中小企業診断協会に入会しました、内藤憲と申します。生まれも育ちも広島で、現在は広島のメーカーに勤務し、新製品の企画・開発業務に携わっています。

中小企業診断士の勉強を始めたきっかけは、企画業務に携わることになり、幅広い視野を持って業務に活かしたいと思ったことでした。勉強を始めた当初は資格を取得するということをあまり意識していませんでしたが、勉強していくうちに、どうせ勉強をするなら資格を取得しようと目標を設定しました。

業務と勉強の両立はなかなか大変だったこともあり、試験に合格したときは達成感も得られました。その後、実務補習を経験し、いろいろな方と接する機会をいただく中で、自分にも何か貢献できることがあるという思いと同時に、まだまだスキルアップが必要だという思いが改めて出てきました。そういった思いもあり、診断協会に入会させていただくことになりました。

今後は診断協会の活動に積極的に参加し、先生方とのつながりを広めさせていただきながら、もっと自分のスキルを高め、いろいろな方面でお役に立てればと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

正会員

不動　静範（ふどう　しずのり）

この度、広島県中小企業診断協会に入会致しました、不動 静範と申します。生まれも育ちも呉市広町で、中学まで体操、少年野球、バスケットボールとスポーツばかりしていた印象です。その後、広島市の高校を卒業して関東の大学に進学しましたが、そこで学んだ経済学が私の考え方の根本になっているようです。

大学卒業後は、父が広島産かきの加工会社を経営していた関係で大手水産会社に就職し、経理業務を担当しました。父の会社が関東に新工場を設立したのを機に家業を手伝ことになりましたが、その 2、3 年後にノロウイルスが食中毒の原因物質に含められたことで年々出荷量は減少し、経営不振になったため、ついには同業社の子会社となって現在に至っています。子会社となってからは、不採算の商品を見直した後に工場を集約し、さらに親会社の工場と包括的な生産分担をすることにより、収益性が良くなっています。

今後は、自社だけでなく、低迷する広島かき業界の収益性の改善に、微力ながら貢献していきたいと考えております。業界での経験は長いのですが、診断士としては昨年の８月に登録したばかりで全く経験がありませんので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

正会員

森島　重樹（もりしま　しげき）

この度、広島県中小企業診断協会に入会いたしました、森島重樹と申します。生まれも育ちも福山で、大学も広島、社会人生活もほぼ広島と、広島人です。

私は、大学卒業後 29 年間金融機関に勤務し、その後 6 年間中小小売業に出向し、昨年金融機関に戻るタイミングで退職し、中小企業診断士資格を 11 月に取得いたしました。金融機関と中小企業両方経験したことで、より中小企業の成長・発展・事業承継に幅広く関わっていきたいと感じたことが診断士として独立した理由です。

診断協会では、事業承継研究会に所属させていただき、今年度からは更新研修委員会にも参加させていただくこととなりました。

中小企業経営者の思いに寄り添い、経営者から信頼される診断士になれるよう、日々精進して参りますので、諸先輩方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

特別会員

大本　弘一（おおもと　こういち）

初めまして。この度、広島県中小企業診断協会へ入会しました大本と申します。広島に住んで 30 年以上、気持ち的には広島県人ですが、出身は、山口県大島郡（ミカンとハワイ移民の島）です。

勤務先は、情報通信系の企業で、以前は、業務システムの開発、サーバインフラの構築・運用等の IT 系業務に従事しておりましたが、現在は、新規事業開発に関する業務に従事しております。

中小企業診断士を目指したきっかけは、IT 系業務に従事していた時期に、お客さまへの提案を行う際、単純なソフトウェア導入等では無く、より経営的に効果がある提案がしたい、その根拠を示せる知識が欲しいと考えたからです。

試験は、独学でテキストをひたすら読むという学習方法を採ったためか、二次試験を 4 回も受ける事になりましたが、平成 29 年に無事合格、昨年、広島で実務補習を受け、中小企業診断士に登録することができました。

将来的には、IT の知識や経験を生かし、企業の経営課題解決や目標達成を支援できるような診断士になりたいと考えています。そのためにも協会の活動に積極的に参加し、診断士としての知識・経験を得ていきたいと考えています。皆さま、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

特別会員

森　一真（もり　かずま）

この度、広島県中小企業診断協会に特別会員として入会しました、森一真と申します。

総合化学メーカーで石油化学プラント設備のメンテナンス・改造工事に関わる仕事をしております。新卒で就職して以降 20 年以上工場勤務をしておりますが、化学工場以外の世界も見てみたいと考えて診断士を目指し、2017 年１月に合格、2018 年３月に登録いたしました。

自宅は廿日市市にありますが４年前に転勤になり、現在は単身赴任で千葉県市原市に住んでおります。普段は千葉にいますので千葉県中小企業診断士協会に正会員として入会しており、研修部委員として理論政策研修や新入会員研修の裏方の業務を行うとともに、特産品・観光研究会など６つの研究会に所属して活動しています。

時期は未定ですが、いずれは自宅があり家族が住んでいる広島に戻りますので、今回、広島県協会にも入会させていただくことにしました。広島には帰省などの際にしかいないのですが、タイミングが合えば広島県協会の研究会やイベントにも参加したいと考えております。

今後、住み慣れた広島でも診断士の活動ができると思うとわくわくしております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

特別会員

山中　智幸（やまなか　ともゆき）

平成 30 年 11 月に中小企業診断士に登録し、この４月から広島県中小企業診断協会に入会いたしました山中智幸と申します。

広島県江田島市出身で、大学時代東京にいましたが、就職を機に広島に戻り、平成６年に行政機関に奉職しました。現在は、出向し大学職員として勤務しています。

資格取得のきっかけは、組織で仕事をする中で経営的な知識を求められる機会が増えてきたことにあります。一方で行政機関の中にいるとそうした知見は断片的なものとなってしまうため、体系的に学ぶことで自らの知見を広げたいと考えたことから、中小企業診断士の勉強を行いました。

資格取得や実務補習などで得られた知識や、普段接することのない方との出会いなどにより、自らの仕事を振り返る貴重な経験をさせていただけたと感じております。

今後は、中小企業診断士の知識に加え、当協会の活動を通じて得られた経験や技能をもとに、大学運営に貢献するとともに、地域発展の一助となればと考えております。

御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和元年度　研究会活動計画

『企業内診断士診断能力向上研究会』

研究会広報担当　岡本　志朗

企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）では、“企業内診断士の企業診断等にかかる能力の向上（研鑽）”、“中小企業経営の改善・革新の支援（貢献）”、“診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）”を目的として、活動に取り組んでいる。

会員数は、発足より年々増加し、9 年目を迎える今年度は、39 名（5 月時点）である。

今年度の活動計画は、毎月第 3 土曜日に月例会合を開催し、会員それぞれがグループ研究、個人研究を行い、発表を行っていく。また、会員からの紹介や協会本部の「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」等による実務診断にも積極的に取り組んでいく。

加えて、令和元年 7 月 20 日（土）及び 11 月 30 日（土）は、理論政策更新研修後に交流会を行う予定としており、当研究会会員以外の方も是非ご参加いただきたい。

平成 31 年 4 月の年次総会後に、
県協会江川会長をお招きし
開催した懇親会の様子

『ニューロビジネス研究会』

代表　　西村　英樹

ニューロビジネスとは脳科学の知見をビジネスに活用するもので､AI、ロボティクス等の技術において急速に導入が進んでいる。当研究会は診断協会会員だけではなく、AI に関心を持つ中小企業経営者（ユーザ、ベンダー）もメンバーに加え、中小製造業が抱える経営課題に対して、AI を活用する具体的な方法についての調査研究を行っている。

昨年度は研究会メンバーが代表となり「ひろしまサンドボックス」(広島県による AI/IoT 実証プラットフォーム事業）へ応募した「つながる中小製造業でのスマートものづくり」が採択された。この事業では他のメンバー企業も加わりコンソーシアムを形成し 3 年に及ぶ実証実験を行っている。研究会で過去に取り組んだ「製造業における AI の活用」の研究成果も取り入れ、中小企業経営における AI 活用について引続き検討していく予定である。

メンバー

黒崎　崇貴　※	三本木　至宏　※	水津　卓也　※
西村　英樹　※	平見　尚隆　※	吉村　厚司　※
丸田　稔　※	三宅　慶子　※	森若　壽英　※
上田　寛治	柳原　邦典	高下　和浩
津田　義明	前田　啓太郎	三宅　公平
新田　幹夫		

※は県協会中小企業診断士

今年度の主な活動計画は以下のとおりである。

（１）AI の具体的な活用について情報の共有及び検討

（２）会合場所等

毎月第 3 土曜日の午前 10 時より 2 時間、広島市内で会合を行う。

『企業再生実践研究会』

代表　　岩本　亨

当研究会は本年２月３日に第一回研究会を開催したばかりの、広島県中小企業診断協会の中では最も新しい研究会である。

活動目的は①事業再生支援の現場で実践できる知識・スキルを研究し習得すること。②事業再生にも寄与できる中小企業診断士を育成すること。の２つである。

仮に支援先や紹介された先、もしくは知り合い等の中小企業の社長が、取引先の破綻で二次破綻の危機に陥ったり、資金繰りが詰まりそうになってしまったりして、中小企業診断士のあなたに助けを求めてきたとする。あなたは的確にアドバイスしたり具体的に支援することができるだろうか？

このようなケースに直面した時に中途半端な知識やスキルで対応すると、最悪の場合、その会社が倒産してしまうかもしれない。

私は中小企業診断士が再生支援について必要最低限の知識を持っていなければならないと考えている。この研究会活動を通じて切磋琢磨しつつスキルアップしたい。興味のある方は岩本宛（iwamoto@asset-p.co.jp）に連絡をいただきたい。

令和元年度　委員会活動計画

『総務委員会』

総務委員長　波出石　誠

１．活動方針と委員会体制

総務委員会は、当協会の円滑な運営への寄与を活動方針とする。今年度は、昨年度と同様、委員長に波出石 誠、副委員長に谷本 俊満、委員に児玉 忠則、佐藤 温彦、中尾 友和、平田 里文、松浦 和夫、渡邊 敏明（50音順）の８名体制で活動を推進する。

２．活動計画

総務委員会では、以下の活動を行う。

（１）総会及び理事会の企画・運営

通常総会（5 月）及び理事会（4 月､8 月､11 月､2 月）の開催。

（２）当協会及び中小企業診断士の認知度向上

①シンポジウム・懇親会の開催（11 月）

当協会 60 周年記念事業及び「中小企業診断士の日」の活動を兼ね実施（各委員会と連携）

②キャラバンの実施（9 月～10 月。上記①のＰＲ活動ほか。各委員会と連携）

（３）外部関係機関との連携事業

①図書館ビジネス相談会（広島市立中央図書館：第 2 土曜日、福山市中央図書館：第 4 土曜日）

②創業相談会（9 月。日本政策金融公庫、県信用保証協会等 8 機関主催の無料創業相談会）

③広島自由業団体連絡協議会（7 月、11 月、2 月。広島の士業 12 団体の連携活動。11 月は、同協議会主催の「第 27 回無料よろず相談会」）

④全国本部及び中国 5 県の診断協会との連絡会議（10 月）、中国経済産業局と新年度中小企業施策・予算などについての勉強会（1 月）

（４）会員交流、会員増強活動

（５）その他

協会規定の改廃、会員の綱紀・表彰、その他総務事項の推進

『広報委員会』

広報委員長　小寺　崇之

１．委員会メンバー

令和元年度の広報委員会は､委員長に小寺 崇之､副委員長に古川 佐千夫、委員に青谷 智晃、三本木 至宏、原 信之介、丸田 稔の合計６名の体制で推進する。

２．活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う計画である。

（１）協会機関誌「診断ひろしま」の発行

協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や、診断士コミュニティ（随筆見聞録、書籍出版紹介、診断士リレー訪問記、新入会員紹介）等を掲載する。本年度は、７月（本号）と１月の２回の発行を計画している。

（２）広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、その他広報活動を行う。具体的な活動内容については今後の委員会にて話し合いを行い決定していく。

『試験委員会』

試験委員長　落野　洋一

今年度の試験委員会は昨年度に引き続き、中小企業診断士第一次試験、第二次試験（筆記・口述）の実施計画の立案、その業務実施を以下のメンバーでおこなっていく。(順不同、敬称略)

委員長	落野 洋一
副委員長	松浦 由浩
委員	岩井屋 忠昭、植田 昌子、馬上 元彦、木村 義洋

令和元年度中小企業診断士試験日程

１．第一次試験

令和元年８月３日（土)、４日（日）広島工業大学専門学校（広島県広島市西区福島町 2-1-1）

２．第二次試験（筆記）

令和元年 10 月 20 日（日）

３．第二次試験（口述）

令和元年 12 月 15 日（日）

※第二次試験の試験会場については、現時点で公表が許可されていないため掲載しない。

『診断実務委員会』

診断実務委員長　小川　成洋

中小企業診断士の登録要件である実務補習の実施と、登録更新に必要な実務従事ポイント取得のために企業内診断士等を対象とした実務従事事業を実施する。

今年度の活動方針は①実務補習のテキスト内容が改定となったため、指導員への周知・徹底を図ること。②実務補習指導員の登録者の増員を図ること。③実務従事診断手法を進化して、スキルアップの向上を図ることである。

（１）　中小企業診断士実務補習

①夏季コース　（5 日間コースのみ）:RCC 文化センター

第１回：令和元年７月５日（金）開講式　～　７月 16 日（火）修了式

第２回：令和元年９月６日（金）開講式　～　９月 17 日（火）修了式

②冬季コース（15 日間コース・5 日間コース）:RCC 文化センター

第１回：令和２年２月７日（金）開講式　～ ２月 17 日（月）修了式

第２回：令和２年２月 21 日（金）開講式　～3 月２日（月）修了式

第３回：令和２年３月６日（金）開講式　～ ３月 16 日（月）修了式

（２）　実務従事事業

10 月コース、11 月コースを予定。

診断実務委員

委員長　小川　成洋　　副委員長　田村　善光　委員　川角　栄二　水津　卓也

『更新研修委員会』

更新研修委員長　宮前　美方子

１．委員会メンバー

令和元年度の更新研修委員会は､委員長に宮前 美方子､副委員長に弓掛 元、野村 哲朗、委員に三宅 慶子、小地原 良樹、金田 賢二、中岡 朗（新任)、森島 重樹（新任）の合計８名の体制で遂行する。

２．活動内容

更新研修委員会は、中小企業診断士の登録に必要な５年ごとの「知識の補充要件」の更新要件を、充実した内容で提供することを目的とし、参加者の意向を反映させるため、会場や講師など運営に携わる内容を、委員会の協議により決定し、運営していく。

３．本年度の理論政策更新研修の予定

第１回	７月 20 日（土）	『新しい中小企業施策について』 中国経済産業局 産業部 中小企業課 総括係長　原田　哲哉　氏（第１回） 課長補佐　内海　盛之　氏（第２回） 『地域資源を活用した中小企業支援 』 大嶋経営提案事務所　代表 中小企業診断士　大嶋　浩敬 氏	広島県情報プラザ
第２回	７月 21 日（日）		
第３回	11 月 30 日（土）	『新しい中小企業施策について』 中国経済産業局 地域経済部 産業技術連携課 知的財産室長　清棲 保美 氏 『中小企業の知財戦略支援』 ディスプロ株式会社 代表取締役　桑原 良弘 氏	広島県情報プラザ
第４回	２月 15 日（土）	『新しい中小企業施策について』 中国経済産業局 産業部 中小企業課　課長　難波　貢司　氏 『中小企業の IT 利活用支援について』 株式会社アンコード　代表取締役 中小企業診断士　丸田　稔　氏	福山市ものづくり交流館

『会員研修委員会』

会員研修委員長　川角　栄二

１．委員構成

本年度の会員研修委員会は、昨年度から引き続き、委員長に川角 栄二、副委員長に榎 志織、委員に大島 季子、木村 武則、牧野 恵美子、野崎 義博の６名体制で活動を推進する。

２．活動方針

昨年度に引き続き、中小企業診断士の資質及び技能の向上を目的とした活動を推進する。本年度は、下記研修会の他に、日本政策金融公庫から講師を招いた研修会（時期未定）を予定している。

３．活動計画

現段階で日程が決まっている研修会は以下の通り。

（１）資金繰り表フォーマット活用セミナー（併催:消費税軽減税率説明会）

日時… ７月６日（土）13:30～16:40

会場… 広島市中区千田町３丁目７－47　広島県情報プラザ２F　視聴覚室

講師… 資金繰り表研究会　代表　　大村 貞之　氏

役員　　江川 雅典　氏

（２）SDGs セミナー（仮）

日時… ９月 21 日（土）13:30～16:30（予定）

会場… 広島市中区千田町３丁目７－47　広島県情報プラザ２F　第２研修室

講師… 広島大学大学院国際協力研究科　教授　金子 慎治　氏（予定）

『グループ研究委員会』

グループ研究委員長　岡　佳弘

１．はじめに

研究会は、現在、11 グループ（うち東部地区 2 グループ）が活動中である。

今年度も研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会の設立を促進することにより､会員相互の研修の場を提供し､当協会の会員増加に貢献していく。

２．委員会体制

グループ研究委員会は、6 研究会に所属する計 10 名の委員により活動を行う。

委員長	岡　　佳弘			
副委員長	黒川　睦郎	岩田　潤一		
委　員 (50 音順)	市岡　和美	岡本　志朗	黒崎　崇貴	小林　幸夫
	鉄本　一生	野崎　義博	宮前　美方子	

３．主な活動計画

（１）研究会活動のPR、新規研究会設立促進

研究会活動 PR 小冊子の掲載情報を更新し、引き続き協会 HP で公開するとともに、様々な機会を捉え PR を実施する。また、新規研究テーマの発掘等により新規研究会の設立を促す。

（２）グループ研究会連絡会議

研究会相互の連携を図るとともに、研究会活動活性化に向けた諸課題を議論するため、各研究会代表による連絡会議を開催する〔令和 2 年 2 月 1 日（土）開催予定〕。

（３）研究活動成果発表会

会員相互の研鑽の場を提供するとともに、研究会参加を契機とした協会への新規入会を促進するため、研究成果を中心とした発表会を開催する。

○日時等　令和元年 9 月 7 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分　広島県情報プラザ第一研修室
○発表研究会　〔成果発表〕企業内診断士の会、原価管理研究会、事業承継研究会
〔新規研究会紹介〕企業再生実践研究会

（４）調査研究補助事業（活動補助費の支給）

研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会設立意欲を高めるため、研究活動にかかる費用の一部を助成する。

（５）研究活動成果の発信

研究成果に関する論文について、随時協会 HP 上で公開する。また、協会本部「令和元年度調査研究事業」への積極的な応募を促す。

『品質保証委員会』

品質保証委員長　西村　英樹

品質保証委員会はこれまで受託委員会が築いてきた数々の実績をベースに、県協会が受託する事業の拡大及び受託事業の品質向上を目的に昨年度より活動を開始した。

【委員会メンバー】

黒川　睦郎	田辺　稔
西村　英樹	松浦　和夫
松浦　由浩	

【活動方針】

①協会の受託事業の円滑な運営

・受託事業の受入態勢・運用規定等の構築、申請書の作成等を行う。

②新規受託事業の拡充

・公的支援機関との連携維持・強化、金融機関・民間支援団体等との連携活動の新規開拓を行う。中小企業診断士の認知度の向上や診断士の日のキャラバン活動等を通じた関係機関との連携を強化する。

③専門家登録会員への活動の機会配分と品質向上の実施

・派遣専門家の研修機会の拡大（G 研修委員会と連携)、成果物に対する品質向上への助言・是正等を通じた品質保証を行う。

【活動計画】

①専門家登録システムの構築

・IT 専門家（県協会会員）も含めシステム構築に向けた検討会を開催する。

②診断士のキャリアパス検討

・企業内診断士から専門家登録（プロコン）へ継続した育成計画等を策定する。

・専門家登録後のキャリアアップに関する育成計画等を策定する。

③受託事業の難易度判定

・各受託事業の難易度を判定し、それに適した診断士を派遣する。

④診断報告書の内部審査体制の構築

・審査員の任命（選考基準、任命方法)、報酬等に関する仕組みを構築する。

巻末のお知らせ

『令和元年度　年間主要行事日程表』

日　　付	行　　事
4 月 21 日（日）	平成 31 年度　第 1 回理事会
5 月 18 日（土）	令和元年度　通常総会
7 月 5 日（金）～16 日（火）	夏期実務補習①（5 日間）
7 月 6 日（土）	第 1 回　会員研修会
7 月 20 日（土）、21 日（日）	第 1 回、第 2 回　理論政策更新研修（広島会場）
8 月 3 日（土）、4 日（日）	中小企業診断士第 1 次試験
8 月 21 日（水）	令和元年度　第 2 回理事会
9 月 7 日（土）	グループ研究会　研究成果発表会
9 月 6 日（金）～17 日（火）	夏期実務補習②（5 日間）
9 月 21 日（土）	広島県中小企業診断協会セミナー
10 月 20 日（日）	中小企業診断士第 2 次試験（筆記試験）
11 月 1 日（金）	広島県協会　創立 60 周年記念シンポジウム
11 月 17 日（日）	令和元年度　第 3 回理事会
11 月 30 日（土）	第 3 回　理論政策更新研修（広島会場）
12 月 15 日（日）	中小企業診断士第 2 次試験（口述試験）
2 月 7 日（金）～17 日（月）	冬期実務補習①（15 日間・5 日間）
2 月 15 日（土）	第 4 回　理論政策更新研修（福山会場）
2 月 19 日（水）	令和元年度　第 4 回理事会
2 月 21 日（金）～3 月 2 日（月）	冬期実務補習②（15 日間）
3 月 6 日（金）～16 日（月）	冬期実務補習③（15 日間）

『事務局からのお知らせ』

１．会費納入のお願い

令和元年度の会費納入につきまして､既に振込用紙と請求書を送付させていただいております。納入期日は６月 28 日（金）となっておりますので、未だ納入しておられない方は、速やかに納入して頂きますようお願いいたします。

２．専門家登録のお願い（正会員の方へ）

広島県中小企業診断協会では各支援機関より様々な中小企業支援事業を受託しております。県協会が受託した案件については、正会員の中で専門家登録票をご提出して頂いている方に、随時依頼を行っております。まだ、専門家登録票を提出されていない方は是非この機会にご登録をされて、大いに活躍して頂きますようお願いいたします。詳細につきましては、事務局までお問合せください。

３．診断実務従事実習のお知らせ

日頃診断業務に携わる機会の少ない診断士の皆様向けに、診断手法・診断ノウハウの習得と登録更新に必要な実務従事ポイントの取得を目的とする「診断実務実習」を本年度も下記の通り実施いたします。受講を希望される方は、お早めにお申し込みください。

◇実施時期及び期間

10 月および 11 月、期間はともに６日間

実施日は原則として土日祝日（診断先企業の都合により、平日が加わる場合もあります）

◇受講料

当会正会員・特別会員　42,000 円（税込）

非会員　63,000 円（税込）

◇申込締切日：令和元年８月５日（月）

企業内診断士の会 夏季 交流会のご案内

夏

ネットワークを広げよう!!

主 催　一般社団法人 広島県中小企業診断協会 **企業内診断士の会**

日　時　**2019年7月20日(土)**
午後6時30分～9時00分
（理論政策更新研修終了後）

内　容　**第１部「診断士ならではの事業承継支援」**
池永経営会計税理士法人部長・中小企業診断士
鉄 本　一 生 氏
第２部 懇親会

会　場　**スパッツィオ フェリス**
（広島市中区中町10-14 iビル中町2F）

参加費　**4500円**（２時間飲み放題）

企業内診断士の会は2011年に発足し9年目を迎えます。（4月現在の会員数39名）
中小企業診断士、士業の皆さんのご参加をお待ちしています。
（ご来場の際は、普段着でお越しください。）

☆参加希望者は、**7月10日㈬までにEmail** でご連絡ください。　knj@fch.ne.jp **西村**

企業内診断士の会 秋季 交流会のご案内

秋

ネットワークを広げよう!!

主 催　一般社団法人 広島県中小企業診断協会 **企業内診断士の会**

日　時　**2019年11月30日(土)**
午後6時30分～9時00分
（理論政策更新研修終了後）

内　容　**第１部 セミナー**（後日発表、乞うご期待！）
第２部 懇親会

会　場　**広島市内**（未定）

参加費　**未定**（5000円程度）

企業内診断士の会は
2011年に発足し9年目を迎えます。
（4月現在の会員数39名）
中小企業診断士、士業の皆さんの
ご参加をお待ちしています。
（ご来場の際は、普段着でお越しください。）

☆参加希望者は、**11月20日㈬までにEmail** でご連絡ください。　knj@fch.ne.jp **西村**

(一社)広島県中小企業診断協会

11月4日は中小企業診断士の日

広島県診断協会 創立60周年記念シンポジウム

未来に繋がる 中小企業

どなたでもご自由に参加できます
参加無料

2019 **11/1(金)**

ANAクラウンプラザホテル広島
広島市中区中町7-20

中小企業の継続性を支える中小企業診断士

基調講演 Keynote Lecture

パラダイムシフトの必然!! 新規開発から再生事業へ
マリーナホップ 風の国再生事業の検証

株式会社みどりホールディングス　代表取締役 **杉川　聡 様**

パネルディスカッション Panel Discussion

人材確保に向けた取組み

パネリスト：杉川　聡 様（株式会社みどりホールディングス 代表取締役）
平野 勝正 氏（広島県事業引継ぎ支援センター 統括責任者・中小企業診断士）
松浦 和夫 氏（㈱ビジネスブレイン 代表取締役・中小企業診断士）
吉村 厚司 氏（㈱ドリーム・アーツ 上席理事・中小企業診断士）

コーディネーター：（広島大学産業地域連携センター 特任教授・中小企業診断士）平見 尚隆 氏

申込方法　E-mail本文に必要事項（氏名、所属、連絡先、E-mail）をご記入の上
下記の申込先までお送りください。情報交換会については、別途ご連絡ください。

（定員）150名
（入場無料）

お申込み お問合せ　**広島県中小企業診断協会** 事務局
E-mail:jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp　URL:https://www.hiro-smeca.jp/

申込締切 **10/28(月)**

グループ研究会
令和元年　研究成果発表会

一般社団法人広島県中小企業診断協会

９月７日（土）　１３：３０～１６：３０

受講無料

広島県情報プラザ　第１研修室　（広島市中区千田町３丁目７番４７号）

【研究成果発表】

《プロボノ活動実証実験事業》 中山間地域の協同組合を救う！ 企業内診断士の診断事例	地域産品の柚子を使用した洋菓子の製造・販売を通じて、地域社会の発展に貢献している協同組合。しかし、経営は慢性的な赤字が続き危機的状況に陥っています。企業内診断士がメンバーの専門性を活かしどのような提言を行ったのか、その実例を紹介します。	企業内診断士の会 西村　賢志
原価管理システムの導入事例	中小企業診断士が、建設業や製造業等のＩＴを活用した経営力強化を支援するためのスキル「原価管理システム」を研究しています。 県外各地の研究会との連携による、多種多様な中小企業への導入により、生産性向上・利益率改善の成果をあげている事例を紹介します。	原価管理研究会 増田　宣彦
Ｔ社のリアル！ 広島での事業承継の実例	広島県の後継者不在率は全国ワースト５位と事業承継は県内の中小企業にとって切実な悩みとなっています。実際に何に困っているのか、研究会でサポートした企業の実例を使い診断士として総合的な支援の形をゼミ形式で紹介します。	事業承継研究会 鉄本　一生 植田　昌子

【新規研究会紹介】

企業再生実践研究会の紹介	中小零細企業の大半は財務基盤がぜい弱です。外部環境の影響を受けやすく、取引先の経営危機で連鎖倒産のリスクも高まります。広島県内企業の危機は地元中小企業診断士が救う。その実践のために研鑽する研究会を紹介します。	企業再生実践研究会 岩本　亨

ご参加を希望される方は下記にご記入の上お申し込みください。

FAX 082-569-7336 もしくはメール jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp まで

お名前	診断士登録番号
電話番号	【非会員の方のみ】 今後、中小企業診断協会からの情報提供を □希望する　□希望しない
e-mail	

主催

一般社団法人　広島県中小企業診断協会
〒730-0052　広島県広島市中区千田町３丁目７番４７号
ＴＥＬ　０８２－５６９－７３３８　ＦＡＸ　０８２－５６９－７３３６
グループ研究会の詳細は協会ホームページで⇒⇒　https：//www.hiro－smeca.jp/

『編集後記』

令和という新しい時代を迎え、広島県中小企業診断協会も新年度のスタートを切りました。会長、副会長並びに各委員長、理事が中心となり、様々な改革を進めてきた一年でありましたが、協会運営の一つの柱として掲げている会員サービスの充実による効果の現れか、会員数の増加傾向が続いています。

本年度は消費税の増税やそれに伴う軽減税率への対応、人材不足と言われる状況の中での人材の獲得や働き方改革の推進、キャッシュレス決済への対応などが中小企業にも求められています。経営資源の乏しい中小企業にとって、そうした課題を確実にクリアしていくことは困難である場合が多く、サポート役としての診断士の活躍が期待されるところです。そのためには診断士自らの積極的な自己研鑽はもちろん、県協会で行われる様々な研修や研究会で知識の蓄積を行うとともに、協会行事などを活用することで他の会員診断士とのネットワークを築き、多くの情報収集に努めることが重要です。

本誌は新年度号として本年度計画されている協会行事や各委員会や研究会の年間計画などを掲載しております。会員各位につきましては、協会を積極的に活用いただければ幸いです。また、関係機関の皆様におかれましても、当協会会員の中小企業診断士をご活用下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

広報誌発行にあたり、ご協力下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

（広報委員長　小寺 崇之）

表紙写真「風薫る初夏の縮景園」
撮影：小寺 崇之

一般社団法人広島県中小企業診断協会会報　第 81 号　　発行：令和元年 7 月 3 日

一般社団法人　広島県中小企業診断協会
〒730-0052
広島市中区千田町３丁目７番４７号　広島県情報プラザ３階
TEL （082）569-7338　FAX （082）569-7336
E-mail: jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp
発行人　会長　江川　雅典　　編集人　広報委員長　小寺　崇之